

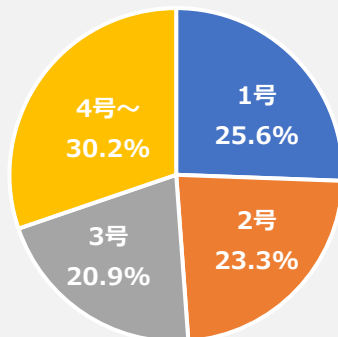
業歴の浅い新興ファンドへの積極的支援



株式会社産業革新投資機構

- 2024年9月末までに投資した民間43ファンドのうち、30ファンドが初号～3号と、JICは機関投資家による投資検討が困難な号数の若いファンドに対しても積極的にLP投資を実行。
- 特に、立ち上げに苦勞する初号ファンドについても、これまでに11ファンド（JICポートの1/4）に対して投資し、リスクマネー供給に加えて、ファンドの立ち上げ支援を行い、更なる民間資金が集まるよう、継続したフォローを実施。

民間投資先ファンドの
号数別割合
(件数ベース)



	2020	2021	2022	2023	2024	計
1号	1	3	3	4	-	11
2号	2	1	4	-	3	10
3号	-	4	1	3	1	9
4号～	1	0	8	3	1	13
計	4	8	16	10	5	43

※ 2024年9月末時点までにJICが初回投資した民間ファンドについて、年度基準で集計
※ アネックスファンドは1号～3号に含めない

2020

2021

2022

2023

2024

1号



2号



3号

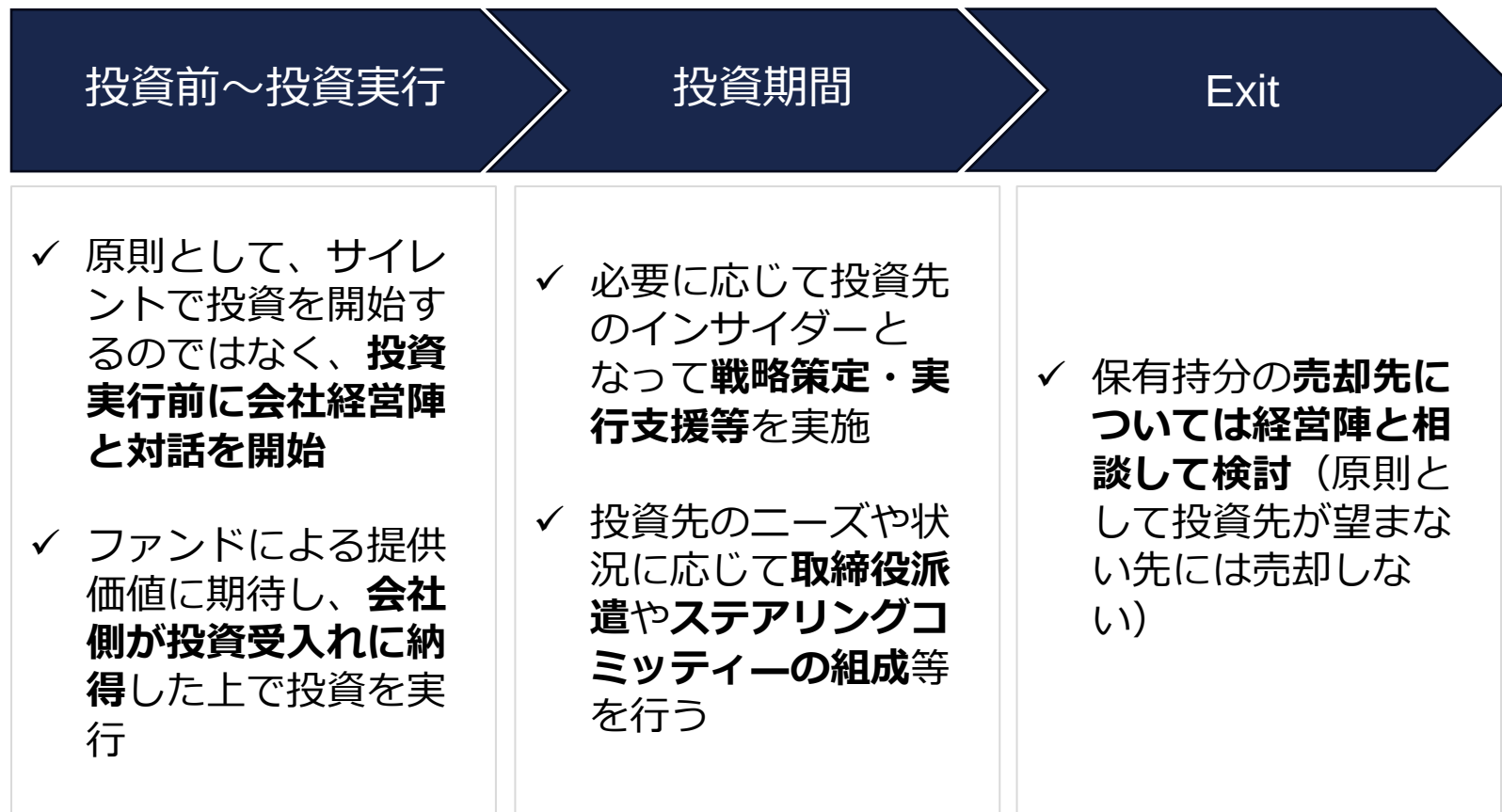


- 本投資方針策定においては、エンゲージメントファンドは建設的・友好的なアプローチ（次頁参照）で中長期的な企業価値向上に資する助言・提案を行い、株価上昇を狙うファンドであって、国内大手金融機関・機関投資家等からの出資が公表されているファンドとして定義する。

投資対象として想定するエンゲージメントファンド

一般的な ファンド設計	・ オープンエンド ・ 投資信託（ユニットトラスト）
投資期間 （保有期間）	中長期
投資対象	中堅～超大手上場企業
典型的な 投資戦略	・ 企業価値向上に繋がる助言や提案により、中長期での事業成長を図り株価上昇を狙う ・ 建設的・友好的なアプローチによる投資実行・対話・戦略策定／実行支援等によって、企業の変革を促す
投資家層	・ 自ら投資した事実を公表する、又は社名が開示されることを厭わない国内大手金融機関・機関投資家を含む

- JICが投資検討・実行を行うエンゲージメントファンドに関しては、投資前からExitまでの各フェーズにおいて、投資候補先／投資先に対して取る建設的・友好的なアプローチとして下記のような行動を想定。



エンゲージメントファンドに出資する意義

- ビジネス環境が大きく変化する中で、企業はDXやGXを含めた大規模な成長投資、事業再編や新事業創出等の経営改革を進めることが求められている。そのような中、**エンゲージメントファンドが十分な影響力を行使することを可能とするための資金的なサポート**を行うことで、国際競争力を持ちうる分野で事業を行う上場企業の株主となり、**中長期かつ建設的・友好的な対話・支援活動によって事業再編や成長投資による新規事業創造を促進する**



エンゲージメントファンドへの投資方針

- 国際競争力を持ちうる事業分野の上場企業を投資対象とし、**事業再編及び新規事業創造に向けた成長投資を促し得る中長期かつ建設的・友好的な投資アプローチ**を取することを志向するエンゲージメントファンドへ投資を行う。
- 投資検討プロセスにおいて、**ファンドの投資アプローチやエンゲージメント方針等をDDを通じて十分に確認**する。
- 具体的には、**以下の条件を満たすファンドを投資検討対象**とする。
 - 日本企業に対するエンゲージメントを主たる投資戦略とするもの
 - 投資候補先がファンドからの投資受け入れに納得した上で投資を実行し、保有期間中は投資先企業と協業して戦略策定・実行支援等を行い、投資先企業と相談してExit先を検討すること
 - 中長期的なエンゲージメントを可能とするファンドストラクチャーとなっていること
 - 短期的な株主還元のみを志向するものでないこと